

ウクライナ情勢の深刻化や外国為替市場での円安ドル高進行を背景に、有事に強い「安全資産」とされる金製品の取引が活発化している。取引価格の高騰で、県内では買い取り専門店などに金製品を持ち込む人が増加。各店には1月に比べて2倍近い買い取り希望者が訪れている。(1面参照)

国内の金小売価格の指標となる田中貴金属工業(東京)の1ヶ月当たりの販売価格(税込み)は2月上旬まで7千円台前半で推移していたが、ウクライナ有事で金への投資需要が高まったことなどから急騰。20日には過去最高額となる8969円と決り、現在も8千円台後半で高止まりしている。

「金の価格が上がっていると聞いて持ってきた」。高松市下田井町の女性(65)は、長らく自宅で眠らせていた金のネックレスや指輪などを貴金属や着物などを買い取るザ・ゴールド高松

## 香川の買い取り専門店

# 金製品売却 相次ぐ

レインボー通り店(同市伏石町)に持ち込んだ。高値が付いたのは一部だったが、査定総額は10万円超に。女性は「外食代の足しにでもなればと思っていたが、想像以上の値段だった」と笑顔を見せた。



ネックレスを査定する買い取り店のスタッフ―高松市伏石町ザ・ゴールド高松レインボー通り店

## ウクライナ有事で価格高騰

同店では3月中旬から客足が増加。40代以上の女性がアクセサリーを持ち込むほか、延べ板(インゴット)やコインを売りに来る高齢男性が目立つという。同市兵庫町の買い取り店「エヌオーワン高松」も金製品の査定依頼が増えており、担当者は「自身が身に付けていたものだけでなく、親から引き継いだ金製品を持ち込む人も多い」と話す。

円安の影響を受け、手持ちの資産を守ろうと金を買いたい求める人も増加。同市南新町の宝飾品貴金属販売店「はなや」は査定依頼同様、購入希望者が増えており、「新しい」新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに投資を始めた人もおり、需要は高い」とする。

各店は「世界経済の不透明感が増せば、その分、リスクの少ない金の人気は高まる」と指摘。売買の活発化は当面続くともている。